

大阪府立大学大学院看護学研究科博士前期課程

専門看護師 (CNS) コース 3 領域 11 分野

人・環境支援看護学領域

看護技術学
看護情報学
看護管理学
看護教育学

家族支援看護学領域

母性看護学
家族看護学
小児看護学

生活支援看護学領域

地域看護学
老年看護学
精神看護学
在宅看護学

療養支援看護学領域

急性看護学
がん看護学
慢性看護学
感染看護学

修士論文コース 4 領域 15 分野

【出願資格】【選考方法】【選考日時】などは大阪府立大学看護学研究科博士前期課程学生募集要項をご参照ください。

問い合わせ

入試関係

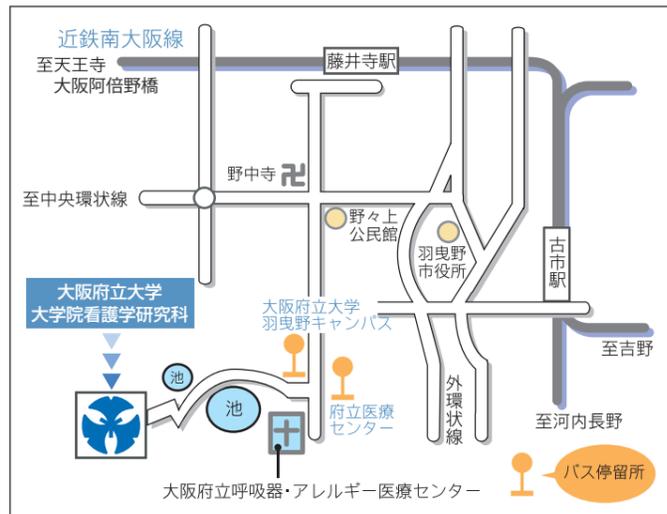
大阪府立大学 羽曳野キャンパス事務所 学生グループ
TEL : 072-950-2117

がん看護専門看護師
コース関係

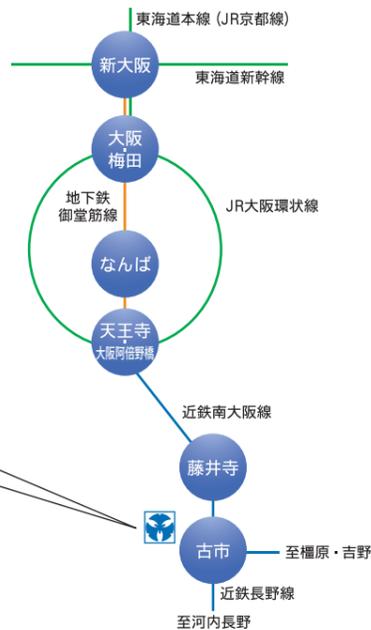
看護学研究科 教授 田中京子
TEL : 072-950-2111 (内線2033)

がん看護専門看護師の情報は下記ホームページで扱っています。
日本看護協会 <http://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cns>

アクセス



近鉄南大阪線「古市」・「藤井寺」駅下車 近鉄バス10分
バス停「大阪府立大学羽曳野キャンパス」または「府立医療センター」下車徒歩約10分



〈最新の入試情報〉

大阪府立大学 <http://www.osakafu-u.ac.jp> 看護学研究科 <http://www.nursing.osakafu-u.ac.jp/>



公立大学法人
大阪府立大学
OSAKA PREFECTURE UNIVERSITY

〒583-8555 大阪府羽曳野市はびきの3丁目7番30号 TEL(072)950-2111(代) FAX(072)950-2131



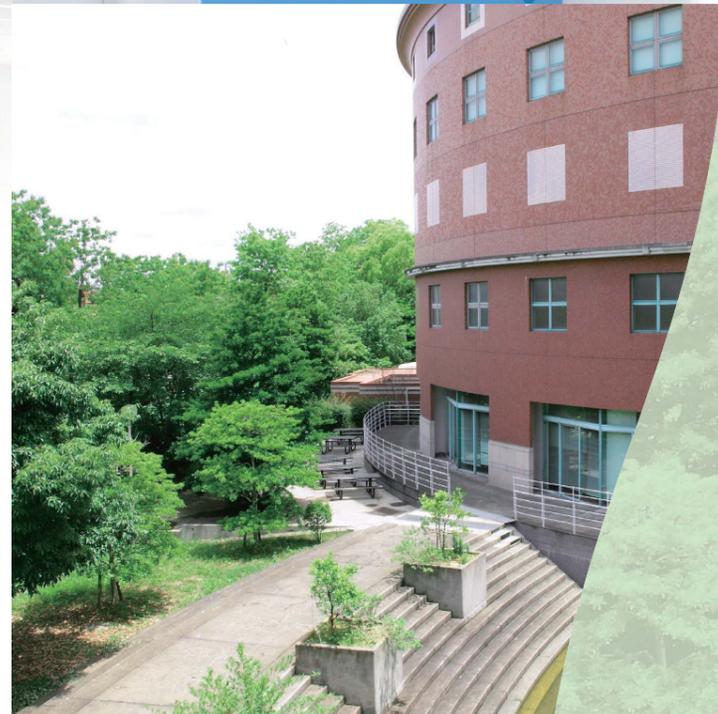
「がん看護の
スペシャリストを
めざす」

大阪府立大学大学院
看護学研究科博士前期課程

がん看護専門
看護師コース
学生募集

日本看護系大学協議会より、
がん看護専門看護師教育課程[※]の
認定を受けています。

※がん看護専門看護師教育課程認定とは
日本看護系大学協議会が、高度な専門知識と技術を持った
がん看護専門看護師の質の維持と向上を目指して定めた基準
をもとに行う認定で、全国で56の大学院の教育課程が認定
されています。(平成25年2月現在)



公立大学法人
大阪府立大学
OSAKA PREFECTURE UNIVERSITY

専門看護師は、対象のクオリティ・オブ・ライフの向上を目的として、個人、家族、および集団に対して、ケアとキュアの融合による高度な看護学の知識・技術を駆使して、対象の治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供する看護職者です。



■がん看護学分野の教育内容の特色

がん看護実践で経験する多様な病態、状況に対応できる能力の育成を目指し38単位教育課程を導入し、フィジカルアセスメント、臨床薬理学、病態生理学の科目を設けています。薬物療法看護と緩和ケアを中心に、がんやがん治療に伴う症状などをアセスメントする能力や患者のセルフケア能力の向上のための方略について教育を強化し、エビデンスに基づいてケアを発展させる能力を育成します。

■がん緩和ケア論

がん看護学に用いられる概念・理論を基盤として診断期から終末期におけるがん患者が抱える様々な症状、苦痛・苦悩をトータルペインの観点から理解し、それらを緩和する方法について検討します。

■がん看護学演習IIB

がん薬物療法を受ける患者に生じる苦痛を伴う症状や副作用の予防・早期発見・早期対処ならびに、がん治療に伴う患者・家族の苦悩を緩和する方法を検討し、患者・家族が質の高い療養生活を送ることができるようケアを探求します。

■フィジカルアセスメントI

CNSとして複雑な健康問題を有する事例に対応する能力を高めるために、系統的な診察技法を身につけるとともに、生活背景からの病態の把握をする視点についても考察しながら講義や演習を進めます。がん看護 CNS コース以外の他コースの大学院生と触れ合う機会ともなり、相互刺激による相乗効果が期待されています。

■共通特論I:臨床腫瘍学総論

がん細胞の特徴に始まり、がんの疫学や治療法と病態の関係などを、7大学から参加している医師や薬剤師達と一緒に講義を受けます。最新のがん治療に関する医学的知識のみならず各大学からの講師陣による特色ある講義が定評です。

また、実習では、本学を修了し、多くの経験を積んだ CNSと大学教員とが連携をとりながら細やかな指導を行っています。



■専門看護師の役割

■実践

個人・家族または集団に対してケアとキュアを融合した高度な看護を実践します。

■教育

看護職者に対してケアを向上させるため教育的機能を果たします。

■相談

看護職者を含むケア提供者に対してコンサルテーションを行います。

■調整

必要なケアが円滑に提供されるために、保健医療福祉に携わる人々との間のコーディネーションを行います。

■研究

専門知識・技術の向上や開発をはかるために実践の場における研究活動を行います。

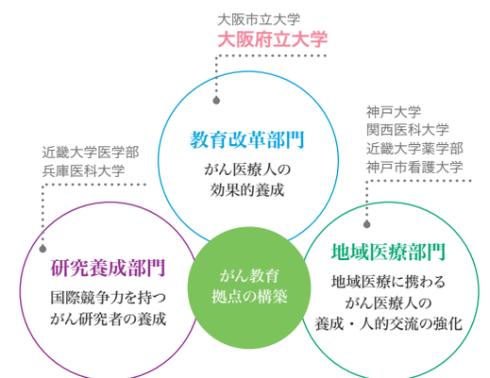
■倫理研究

倫理的な問題・葛藤について関係者間での倫理的調整を行います。



7大学連携 先端のがん教育基盤創造プラン

阪神地区の国公私立7大学8学部
の医学、看護学、薬学系大学院
研究科が相互に連携し、高度な
がん診療と研究を実践できる人材
養成の基盤整備を推進します。
本プランでは、7大学に設置されてい
る各コースの大学院生(多職種)と
合同の講義や演習を行っています。



◇公式ホームページ <http://www.med.kindai.ac.jp/ganpro/>

◇フェイスブック

fb <https://ja-jp.facebook.com/Ganpro.Seven.University.Joint.Project>



がん看護専門看護師になるために

- 看護師免許を有していること
- 大学院博士前期課程への入学資格があること
(入学資格については学生募集要項を参照ください)
- がん看護専門看護師コースを履修可能な程度のがん看護臨床実務能力があること(看護師などの免許取得後、通算5年以上の実務研修をされており、そのうち通算3年以上はがん看護分野であること)

大学院在学中に行うこと

- ・ 専門看護師教育課程(がん看護学)基準の単位を履修すること
- ・ がん看護学分野の中で専門性を深めるために、日本がん看護学会や日本看護科学学会、日本緩和医療学会などに参加すること

大学院修了後に行うこと

- ・ がん看護専門看護師としての実践能力の向上を図るために、大阪府立大学大学院がん看護学分野が主催する事例検討会に参加すること
- ・ がん看護専門看護師の役割を遂行し、高度な看護実践事例(2事例)、コンサルテーション事例(1事例)、コーディネーション事例(1事例)、倫理調整事例(1事例)を看護実績報告書としてまとめる
- ・ がん看護専門看護師認定審査に合格すること
- ・ 学会発表及び原著論文の投稿
- ・ 院内/院外での教育の企画・運営・教育活動

修了後のサポート

事例検討会

事例検討会は、がん看護専門看護師のキャリア向上のための勉強会です。本大学院の修了生が集まり実践事例を検討するもので、困難な事例や活動の進め方について、主体的に意見交換し、がん看護専門看護師として役割を遂行するための能力の発展を目指します。また、専門看護師を講師に迎えた勉強会も行っています。

研究抄読会

高度な実践の基盤となる研究論文のクリティークやエビデンスの活用、研究計画書作成を行い、研究遂行能力の向上と看護実践の基盤の強化を図ります。



在校生の声

高野 将宏さん(博士前期課程1年次)

Q1. 進学の動機は?

私は、臨床において看護を行う中で、もっとよい看護を行うことができないのか日々悩んでいました。自分の目標とする看護とはなにか、がん患者さんとその家族にとってよい看護とは何なのか、すぐには答えが出ない悩みで悶々とし、自分の中の「看護」を考え直す毎日を送っていました。そんな悩みを解決するために、概念や理論の根拠に基づいた看護を行うことができるようになりたいと考え、大学院の進学を決意しました。

Q2. 大学院での学生生活は?

大学院では、主体性が求められ、課題やプレゼンテーションを通して、あらゆる視点からがん看護について考える日々を送っています。学んだ理論や概念を用いて、臨床経験を振り返りながら、同級生や先生方と話し合うことで、実践と理論がつながり、より深い患者理解につながっています。演習では、実際にごん患者さんを受け持ち、理論を用いたり、他職種と連携をはかりながら看護展開を行っていくのを実感しています。また、がん看護学領域だけでなく、様々な背景をもった他領域の大学院生と互いに刺激し合い、時には励まし合いながら充実した大学院生生活を送っています。

Q3. がん看護専門看護師を目指す方へ

大学院での2年間は、がん看護について振り返り、自分自身と向き合い、そして自分の中の新たな看護の可能性を見出すことのできる貴重な機会です。大学院では学ぶことは膨大であり、その中で院生に求められる論理的思考や文献検索力、専門知識の不足など、壁に突き当たることもありましたが、CNS になりたい思いと先生方の熱心なご指導で乗り越えることができています。あなたも大阪府立大学でがん看護についての学びを深めてみませんか。



修了生の声

2011年度修了生

大津赤十字病院 がん看護専門看護師 徳谷 理恵さん



私は現在、病棟や緩和ケアチーム等で活動しています。大学院では、入学以前には自分が漠然と捉えていたがん看護について、学んだ理論や概念をもとに同級生や先生方と多くの時間をかけてディスカッションを重ねる中で、自らの考えを整理することの難しさと患者の理解を深めることの楽しさを学びました。また、他大学、他職種の大学院生と共に学ぶ機会も多くあり、互いの役割を尊重しながら、看護師として患者と家族をどのように捉え、どのようなケアが必要か根拠を示し伝えていくことの大切さを学びました。これは院内のチーム医療における自らの活動の基盤となっています。大学院修了後も事例検討会に参加し、看護実践能力を高める機会を継続して持ちながら、実践に即した講義や助言をしてくださる多くの先輩 CNS や CNS を目指す同級生・後輩との交流を大切に、広い視野を持った看護実践ができるように取り組んでいます。